

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	にじいろ保育園サクセス東戸塚（2回目受審）
経営主体(法人等)	株式会社 サクセスアカデミー
対象サービス	認可保育所
事業所住所等	〒244-0805 横浜市戸塚区川上町85-1 N&Fビル2 1階
設立年月日	平成18年4月1日
評価実施期間	平成28年4月 ～ 平成28年11月
公表年月	平成29年1月
評価機関名	合同会社 評価市民・ネクスト
評価項目	横浜市版

総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業者が課題と考えていること等）

【施設の概要】

にじいろ保育園東戸塚は、JR横須賀線「東戸塚」駅より徒歩3分ほどの8階建てビルの1階にあります。交通量の多い道路に面したビルですが、保育園の入口は裏通りに面しており、子どもたちが安全に出入りすることができるよう配慮してあります。品濃町公園、大豆田公園などの公園に散歩に出かけ、公園の遊具を使い成長に合わせた遊びを楽しんでいます。また、近隣にはスーパーマーケット、薬局、書店、飲食店などの商業施設や地区センター、公会堂、図書館などの公共施設があります。定員は60名(0歳児～5歳児)、開園時間は平日：7時～20時、土曜日：7時～18時です。保育理念は「のびやかに育て だいちの芽」、保育目標は「自然を愛し、心身ともに健やかな子ども」「自分で考え行動し、意欲と根気のある子ども」「『仲間』と関わり、人を思いやれる子ども」「自己を表現できる子ども」です。

にじいろ保育園東戸塚は2006年(平成18年)4月に株式会社サクセスアカデミーによって設立されました。運営法人の株式会社サクセスアカデミーは保育園・学童クラブ・児童館の運営、病院・事業所・大学内の保育委託サービス保育施設運営のコンサルティングサービスなどを首都圏を中心に幅広く展開しています。

●特長・優れている点

【1】穏やかな雰囲気の中、子どもたちは自分で考える力を養いながら育っています。

子どもたちは、様々な場面において、自分たちでルールを作りながら毎日を楽しんでいます。公園では、即席で順番に歌を歌いあったり、踊りあったりしています。オリンピックのまねをしてかけっこを行ったり、鬼ごっこをしたり、子どもたちの発案でどんどん遊びが変化していきます。保育士は子どもたちのアイデアや気持ちを大切にしながら見守っています。

幼児クラスでは4歳児と5歳児が一緒に生活をしています。家庭的な雰囲気の中、5歳児が遊んでいるチェスの周りで4歳児がじっと見えています。5歳児たちはゲーム板の横に書いてあるマニュアルを見て自分たちで駒の動かし方やルールを互いに確認しながらゲームを進めています。その様子を見ている4歳児たちも徐々にチェスのルールを覚えていっています。保育士たちは「え～そうなんだあ」「すごいねえ」「どれ、見せて見せて」などと子どもたちを褒め、子どもたちが自信を持てるような声掛けを行っています。

保育士たちは子どもたちが興奮している場面でも、常に静かで穏やかな話しかけ方を行い、子どもたちの感情が落ち着くように支援しています。保育士たちは、子どもたちが保育士の声掛けにより落

ち着きを取り戻し、「自分はどうしたいのか?」「どうしたら解決できるか?」などの考えを自分の気持ちとして相手に伝えることができるようにしています。

【2】職員からの意見を取り入れ、子どもの個性に合った環境構成へと改善を行っています。

子どもたちが穏やかで落ち着いた生活ができるよう、園内の環境構成に力を入れています。

乳児クラスでは、パーテーション、棚、床マットを利用して、コーナーを作り、子どもが安全で落ち着いて遊べるスペースを作り出しています。過密にならない程度のスペースを作り出すことにより、子どもが安心して動き回れるようにしています。子どもたちは、一人で棚の中に入りこんだり、隅っこに行き横になったりし、思い思いの場所でくつろいでいます。子どもたちは保育士に甘えたり、訴えたり、表情豊かにそれぞれの思いを保育士に伝えています。また、おもちゃは子どもの発達や成長に合わせた物を用意すると共に生活の時間帯によってはおもちゃが見えないようにするなどの工夫をしています。保育士は子どもたちの日々の状況を丁寧に見守り、発達の段階ごとに室内のレイアウトやおもちゃなどを変え、常に子どもが安心して園生活が送れるよう努めています。

幼児クラスでは活動内容に合わせて、保育室内の可動式の棚を動かしたり、ござを敷くなどして保育室を有効に使用しています。友だちから直ぐには見えない場所で少人数で遊んだり、友だち同士や、保育士と話をしたり着替えを行ったりと、子どもが落ち着く空間を作り出しています。保育室内には普段から使用しているおもちゃも置いてありますが、子どもの興味や関心に合わせて、戸棚からおもちゃを取り出すこともあります。子どもたちが、それぞれの個性に合わせた生活ができるように保育士が支援しています。

また、玄関前にある絵本コーナーを、子どもたちのちょっとした休憩場として利用し、子どもたちの逃げ場としたり、本読みをしたり、読み聞かせをしてもらうなど、心を穏やかにするための場所として様々な使い方をしています。

毎日子どもたちと一緒にいる保育士たちが、日々変化する子どもの状態に合わせて、より良い環境構成を考え、意見を出し合って、環境づくりを実施しています。

【3】積極的に日々のコミュニケーションを大切に、保護者との信頼関係を築いています。

朝夕の送迎時には必ず保護者との情報交換を行っています。送迎時、必ず保護者と顔を合わせることもできるよう、受け入れの窓口を幼児クラス、乳児クラス、それぞれ一か所としています。また、クラス担任がいない場合でも連絡帳を基に連絡漏れがないようにしています。栄養士、調理師も送迎時には廊下に出て保護者への声掛けを行なっています。離乳食の進捗状態、作り方、病気がかりの子どもやアレルギー児の保護者への食事のアドバイスなど、折に触れ行っています。

また、幼児を含む、全ての子どもに連絡帳を渡し、日々の会話と共に書面でのコミュニケーションも図っています。乳児クラスは毎日ですが、幼児クラスでも連絡帳を利用して、子どもの様子や情報を伝えています。多い時には毎日連絡帳を記載する時もあります。連絡帳を読んだ保護者も家での子どもの様子を具体的に書くなどしています。保育所と家庭での子どもの様子が詳しく分かることで、子どもは保育士から適切な支援を受ける事ができるようになっています。園は保護者との交流・連携を密にすることにより保護者から高い信頼を得ています。

●改善や工夫が望まれる点

地域との交流を行い、園の専門性を活かした地域支援を行う事が期待されます。

幼保小連絡会議や園長会に参加し地域の情報収集や交流を行っていますが、地域の子育て支援ニーズの把握への取り組みが遅れています。地域の行事に参加したり、園のイベントに地域の方を招待したりする活動を行うなど、今後、地域コミュニティへ積極的に働きかけることが期待されます。また、地域交流で得た情報を基に、幅広く地域の子育て支援ニーズを把握・分析し、地域の特性を生かした育児講座等で園の特色を知らせたり、園が培ったノウハウを地域の子育て家庭に還元するための取り組みの工夫が期待されます。

<p>1.人権の尊重</p>	<p>○保育理念として「のびやかに育て、だいちの芽」としており、保育方針が「みとめ愛 みつめ愛 ひびき愛」となっています。保育目標は目指す子どもの姿として「自然を愛し、心身ともに健やかな子ども」「自分で考え行動し、意欲と根気のある子ども」「『仲間』と関わり、人を思いやれる子ども」「自己を表現できる子ども」としており、利用者本人を尊重したものとなっています。</p> <p>○年度はじめには人権についての研修を行い、言葉の使い方、注意の仕方について話し合っています。子どもを批判したり傷つけることがない保育を行うことを全職員で認識し相互に配慮しています。保育室内を柵・パーテーションで区切ったり移動させたりして、友だちや保育士の視線を意識せず過ごせる空間を作り出しています。</p> <p>○遊びや行事の役割、持ち物・服装などで性別による区別は行っていません。</p>
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<p>○保育課程は保育目標、園目標を第一義に掲げており、子どもの利益を重視したものとなっています。言語化できる子どもについては、丁寧に意見を聞こうとしています。言語化できていない子どもについて、その表情・仕草などから様々な方法で子どもの意向を把握し、それを指導計画に反映しています。</p> <p>○自由に遊べる時間が十分とっており、公園で遊んでいる最中に、自然発生的にカラオケ、ダンス大会を皆で行ったり、子どもたちで変えたルールでの鬼ごっこ、かけっこなどを行ったりするなど、子どもたちの発案を集団活動に取り入れて遊んでいます。</p> <p>○子ども同士のけんかなどについては、保育士は危険がないよう注意深く見守っています。子どもたちの話をじっくり聞き、言葉で上手く気持ちを伝えられない子どもの代弁をするなどして、子どもたちで解決できるよう支援しています。</p> <p>○子どもの成長に合わせた食器を使用しています。保育士、栄養士、保護者を交えて話し合いを行い、スプーンの形状など個々の子どもの状態に合わせた食具を考え使用しています。</p>
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<p>○特に配慮を要する子どもを受け入れています。月1回のカリキュラム会議・職員会議、ケース会議などで個別のケースについて話し合わせ情報の共有が図られています。</p> <p>○一人一人の健康診断を記録した「健康カード」、歯科健診を記録した「歯科健康診査表」があります。健診後、保育士の気になる事などを基に嘱託医やかかりつけ医に相談をしたり、質問したり確認をしたりして連携を図っています。</p> <p>○「保健衛生マニュアル」があり、それに基づき一人一人の健康状態を把握しています。感染症への対応を明記したマニュアル「保育所における感染症対策」があります。保護者には入園時配布している「入園のしおり」「重要事項説明書」の中に「感染症対策について」の項目があり、対象疾病、出席停止の期間基準などを記載し、保護者にも周知しています。</p> <p>○「危機管理マニュアル」「避難訓練」「事故防止」など安全に関する各種マニュアルがあり、職員には周知・研修が行われています。職員は消防署員による救急救命法(心肺蘇生、AED)などの訓練を受けています。</p> <p>○アレルギー疾患については、入園時の健康台帳に記載してもらっています。アレルギー疾患がある場合には、かかりつけ医に生活管理指導表を出してもらい除去食を提供しています。食事の時には、専用のトレーを用い、給食にラップをかけて、そこに子どもの名前を書いて、他の子どもと間違えないように配慮しています。</p>
<p>4.地域との交流・連</p>	<p>○園長は幼保小連絡会議や園長会に参加し、他施設との検討会・研究会に出席し</p>

<p>携</p>	<p>ています。幼保小推進地区指定で、小学校との連携を積極的に図っており、園の運動会は近隣の小学校のグラウンドを借りたりして小学校との連携が図られています。</p> <p>○利用希望者に対しては園長や主任が見学者に対応しています。見学希望者には、都合を曜日や時間の希望に合わせて受け付けています。見学希望者の都合に合わせて対応しています。</p> <p>○嘱託医、地域の病院、横浜市戸塚地域療育センターなどの関係機関のリストがあり、事務室に掲示され、職員はいつでも見ることができます。関係機関との担当は園長がなっています。</p> <p>○毎年、インターンシップ生（高校生）、職業体験学習生（中学生）をボランティアとして受け入れています。ボランティア受入れにあたり、「ボランティア受け入れマニュアル」に基づいて、園の基本的な考え方を説明しています。</p>
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<p>○保育ガイドに人権遵守・倫理規定が明文化され職員に周知されています。玄関ホール、各保育室に保育理念、保育の基本方針を掲示し、園内研修で園長・主任を中心に共通理解を深めるようにしています。</p> <p>○主任はクラスを持たず、保育の現場の業務全般を把握するようにしており、日常業務の中で個々の職員に対して的確な助言や指導を行っています。</p> <p>○ホームページで園の紹介を積極的に行っています。また、見学者に対しては園のしおりに基づいて積極的に情報を提供しています。</p>
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<p>○「実習生受け入れマニュアル」があり、受け入れに際し園の基本事項について説明しています。実習受け入れに当たっては、実習校の担当職員と打合せを行い、実習プログラムを作っています。</p> <p>○職員は年度のはじめに「チャレンジ共有シート」によって自己目標の設定をシートに記録し、年間の目標設定を行っています。これらを基に年間の技術向上目標や研修計画を作っていきます。</p> <p>○園長は、研修計画担当責任者となり職員のニーズを把握しつつ研修計画を作成しています。横浜市や保育の専門機関が実施する外部の研修会に積極的に参加できるように配慮しています。</p>